



PIWU広中

郵政産業労働者ユニオン

2024年 2月13日
第280号
発行：郵政産業労働者
ユニオン 広島中央支部
TEL・FAX 082-244-7719
E-mail piwu-hirochu@
abelia.ocn.ne.jp

春闘シーズン到来

24春闘を考えてみる

「ちょっと立ち止まって休憩しようか」
「苦しい、つらい、つらい、つらい」
「そんな時はつらい言葉を思い出さず」

なんだか「あっー」という間に2月も半ばになってしまいました。なかなか原稿を書く気力も起きてこなかったのですが、春闘シーズン到来ということで一筆。

2月10日付の新聞紙面に、鉄鋼・重工大手の労働組合が要求書を提出とありました。ベア1万8千円〜3万円、年間一時金6・5ヶ月と、昨年を大幅に上回る要求内容に、正直なところビックリしました。

『官製春闘』と言われるようになった昨今の春闘。24春闘でも早い段階から「政・労・使」が揃って5%以上の

賃上げを言ってきていますが、最大手だからこそ出せた要求額なのだろうかとは思いません。

この先、多くの大手企業の労働組合が春闘要求を出してきますが、中身はどれも同じようなものになるでしょう。ただ、同じような要求を中小企業の労働組合が出せるかどうか、疑問符をつけるしかありません。

なぜ24春闘で、労働組合が大幅な賃金アップを求めるのか、一言でいえば

『もう限界！』
につぎるでしょう。

企業がベアの要求に对应してきたのはここ1〜2年です。長らくベアの要求そのものが出されなかったり、出したとしてもゼロ回答、良くて一時金でお茶を濁すという時期が続いてきました。

その結果、名目賃金は横ばい

○名目賃金→手元に入る基本給や残業代など金額そのもの。

○実質賃金→名目賃金をもとに、物価の影響を考慮した指標。購買力。

を続ける、あるいはホントに緩やかな上昇しか描けてこなかった。一方で実質賃金は下がり続けてきた事実。さらに追い打ちをかけたのが、「ここ数年の物価の上昇。」

社会全体として「大幅賃上げが絶対に必要だ」という流れが進んであろう24春闘、裏を返せば、税金の投入や給付金での一時しのぎでは限界であったこと、使用者側も、人手不足解消や優秀な人材の確保・繋ぎ止めには利益を働かすに還元していくことが一番てっとり早いという判断に至ったのだろうと考えます。

続く物価高に対し、多くの識者が物価の上昇自体を問題視してはいません。問題なのは物価高に伴って賃金が上昇していかないことが問題だと指摘しています。それだけ物価の上昇と賃金の上昇がリンクしていないという事です。

「政・労・使」で5%以上の賃上げとは言っていますが、それで今

の物価高に追いつけるのでしょうか？ 総務省の資料から2023年10月の前年同月比の物価上昇率を拝借してみました。

- ・たまご 28・3%UP
- ・穀類 7・5&UP
- ・生鮮野菜 18・6%UP
- ・ティッシュペーパー 19・6%UP

これじゃ5%程度アップしたところで足りないのは明白です。冒頭に書いたことに戻りますが、一見ありえないくらいに思える大幅な賃上げを要求していること、皆さんはどう思いますか。私自身は真つ当な要求を出していると思います。

長々と書いてきましたが、自分なりに24春闘について考えてみました。

職場では「赤字」をひたすら強調する管理者も見受けられます。ですが、私たちは24春闘では内部留保を崩してでも賃上げをしていく必要があると考えています。今後、要求書を提出し本格的に春闘を闘っていくことになりそうです。

職場の皆さんには組合掲示板に貼

られたピラをぜひ読んでいただきたい。実際に現場で働く皆さんの応援が糧になります。

大幅賃上げと底上げを

24春闘勝利 広島県決起集会

3月14日(木) 18:30~アリスガーデン広場